



【PROFILE】

- 1958年 広島市生まれ
- 1981年3月 神奈川大学工学部卒業
- 1981年4月 (株)ソディック入社
- 1987年 (株)橋川製作所入社
- 1989年 専務取締役就任
- 1998年 代表取締役社長就任
- 趣味 気功、ウエイクボード
- 座右の銘 進化向上

高度で独自性の強い技術はまさに
「職人わざ」。急増する精密機器の
ニーズに応え、ニッチ市場を開拓。

Top's Interview

【トップインタビュー】

会社DATA

【設立】 1970年1月

【資本金】 1000万円

【従業員数】 5名

【売上高】 4800万円
(2008年12月見込み)

【所在地】 広島市南区青崎 1-4-12

【事業内容】 精密機器(金型および精密治具・部品等)の放電加工・受託加工・受託研究・技術指導

◆御社の事業内容について

お聞かせください。

当社は、主に金型や精密治具・部品等の放電加工を行っています。放電加工とは金型などに放電を繰り返して、複雑で微細な形状部の加工を可能にする技術です。電圧や時間の微妙な変化で微調整できる、職人技が要求される高度な技術なのです。

私たちは独自の微細放電加工技術を確立し、携帯電話やカメラ、飛行機の部品など、幅広いニーズに対応。こうしたニーズの受け皿として、全国の様々な企業から厚い信頼を獲得しています。

放電加工は自然界の落雷破壊現象

ような形で様々な分野から発注があるわけですが、この放電加工に関しては、世界でトップクラスの技術だと自負していますし、近い将来、私たちの技術が本場に必要とされ、ビジネスとして開花するだろうと考えています。

◆今後の事業展開について

お聞かせください。

ナショナルプロジェクトとして、これまで11年にわたって委託を受けてきた国の研究開発が2007年で終了し、2009年からこの成果を事業化するための準備を着々と進めているところです。具体的には次世代の半導体装置に使われる部品の製造です。市場規模としてはまだまだ小さいのですが、この分野に我々の技術が使われること自体が画期的な出来事。創業以来40年間、精魂込めて傾けてきた技術の集大成として実を結んだことに大きな喜びを感じています。

当社は小さな町工場なので大量生産の担い手にはなれません。ですから少量であっても高い利益が得られる「オンリーワン技術」を持たなければなりません。ということになると、大企業がこぞつて開発に取り組んでいる分野ではなく、ニッチな

分野、他社がまだ目を向けていない分野を追い求める必要があります。そういう意味では当社は自信を持って社会に送り出せる製品を開発することができました。経営者として、開発力の次は経営力が問われるステージに突入したと感じています。今後は製品の魅力をPRしてどうセールスに結びつけていくか、会社の成長に合わせていかに大きく、着実に市場を広げていくかというのが当社にとっての挑戦だと考えています。

◆御社の求める人物像について

お聞かせください。

当社は、繰り返しの生産性というのがまったくない業態ですから、技術を習得するには長い期間を要します。1年間は模索の日々が続き、来たる仕事は毎日が日替わりメニューです。しかしその段階を乗り越えて2、3年経ったころには、幅広い経験と知識が仕事を通して自然と身につけているのです。ですから、何よりも地道な努力と辛抱強さが求められますね。

◆御社の現状について

お聞かせください。

現在、放電加工のニーズは決して多いとは言えません。ビジネス的に言えば、市場規模はまだまだ小さい。しかし「どうしても橋川製作所の技術でなければできない」という要望は多く、金型分野においては従来の技術で99%まではできるけど、残りの1%を当社に持つてくるという生産・受注形態が多いのです。たとえばスペースシャトルの部品などは、宇宙で機能しなければならぬので、ひとつ一つのパーツが非常に堅くて、削りにくい材質が使われています。そのため「ここだけは橋川さんのところをお願いします」と、この

ニーズに